東邦学園広報

vol. 109

平成 22 年(2010 年) 1 月 5 日 発行 学校法人 東邦学園 〒 465-8515 名古屋市名東区平和が丘 3 丁目 11 番地 TEL 052 (782) 1241 FAX 052 (781) 0931 H P 이상 検索 東邦高等学校

て、飛んで、はじける笑顔



高校の中庭で繰り広げられる、生徒たちのパフォーマンスは、時代とともに変わります。リズムに乗って若者が踊る、たたく、歌う。 学園祭はいつも賑やかで新しい文化を感じます。ある時は言い争い、 時には悔しくて涙する高校時代の輝くワンシーンです。(関連記事 7ページ)

大学硬式野球部は、二部昇格を成し遂げました。高く厚い壁を乗り越えて、ヤッターとこぶしがあがります。でも、まだ一部昇格があります。明日からはまた、上に向けた練習が始まります。(関連記事 16 ページ)

学園は休みなく、回って、飛んで、躍動を展開します。 今年も皆様の応援と支援に応えられるように…。





卒業時に 良かったと思える学校に

学園理事長・高校校長 榊 直樹

なお出口の見えない大不況下、 日米同時の政権交代、環境への急

速な関心の高まりなど激動した2009年が終わり、新年 が明けました。新年おめでとうございます。

2010年はどんな年になるのでしょう。目まぐるしく変動する時代であればこそ、教育に携わる教職員、学生・生徒の諸君、保護者の皆さんは右往左往せずに、「質の保証」をしっかり考えるべき時であると提起したいのです。

私が名古屋市内の中学3年生だった3学期、40数年後の今も思い出すことがあります。同級生3人が教室後部の床に土下座させられ、担任に私立高校の入学願書を目の前で破り捨てられたのです。授業中の態度が悪いという程度だったのでしょう。が、効果絶大、普段は指導に手を焼く生徒が涙を流し謝り続けました。

この光景を紹介したのは、高校そして大学へ合格するための努力、見方を換えれば「受験圧力」が、学習や学校生活を律する上で、一定の役割を果たしていたと考えるからです。当時の愛知の高校入試では、受験機会は公私立で各1回、推薦制度はなく複数受験もできませ

んでした。官尊民卑が著しく、私立高校への願書を破られれば、その学校だけを受験する"単願"を余儀なくされた生徒には、高校進学をあきらめろと宣告されたに等しかったのです。

誰もが、「15の春」を自殺者さえ出るように悲しませてはならぬ、大学への「狭き門」を広げ、受験偏重の教育を改めようと訴えたものでした。受験地獄からの解放が真の学校教育を取り戻す必須条件だと――。

いま、高校も大学も入試に『学力』に重きを置かない 仕組みが幅広く取り入れられ、ランクに固執しなけれ ば全入です。 就職も昨秋のリーマン・ショック以前は 求人2に求職1という状況でした。こうしたいわば「圧 迫」のない状態が続いた結果、学校では学びへの意欲の 希薄な学生・生徒が一挙に増えてしまったのは事実 です。

受験戦争、就職難の時代再来を望むのはナンセンスです。高校と大学を擁して88年目に向かう学園の責任者として痛感するのは、「入口」よりも「出口」の大切さです。入学時の偏差値で競うより、高校3年間や大学の4年の間にどれだけ学び、将来の進路に相応しい意欲と適性を身に付けたかでしょう。

卒業時に良かったと思って巣立っていく「質の保証」 に努めること、それが問われていると思います。

建学の精神

東邦学園は1923(大正12)年、東邦商業学校開校に始まりました。 創設者 下出民義は電力関係を中心に、20あまりの会社を経営していました。多くの人の仕事ぶりから、「社会に有能な人間は多いが、真に信頼できる人材は極めて少ない」と悟ります。 産業界のためには人材育成が必要だと痛感し、私財を投げうって東邦商業学校を創設しました。

「真面肖」は今も東邦学園の校訓、教育の基本に据えられています。

東邦学園は「真面目な実業人の育成」を通じて、「真に信頼して仕事を任せうる人格の育成」を建学の精神として掲げています。



改めたい「問題」や「課題」 に対するスタンス

学長 山極 完治

大学が直面している多くの事態 には、山のように「問題」がある。問

題の多さからどこから手をつけていいのかわからず、 手順を誤ってしまうと解決不能の事態に陥ってしまう ので、「問題」はやっかいなもの、避けて通りたいものと なる。

ところが、問題とは、本来、喜ぶべきものではないのか、と語るのは変革する哲学を掘り下げる柴田昌治さん*だ。

柴田さんの言いたいところはこうだ。

「問題は起こしてはいけない負の存在と考えてしまうと、勢い隠蔽さえ起こる。ごまかしがごまかしをよぶことになる。 風通しの悪いカビの生えた組織がうまれてしまう」。

そうではなくて、問題は、それと格闘し、その解決の プロセスを通して人間が試され、成長し、「進化」をもた らすプラスの存在だ、と考えてほしい、ということだ。

問題の存在を喜ぶことができると、次々と問題が指摘され、解決行動が発生し、そうしたなかで、組織は自律機能が働く。組織が生まれ変わり、進化していく。

このように、「問題」に対する基本的なスタンスを変えることが肝心だ。

さて、「問題」の解決を考える段になると、そこに「課題」が浮かび上がる。

「人間が立ちむかうのはいつも自分が解決できる課題だけである」と説いたのはカール・マルクス。課題が意識されるということは、既に、「そのうちに解決の糸口や条件が内包されている場合に限ったことである」ということである。課題認識の内部に、既に解決策はそこにある。課題発見があると、解決も見えてくる。こう考えると、問題に積極的に挑戦する意味が理解できる。

ただ、そう考えることができるのには、「誰かが必ず サポートしてくれる」という組織文化の醸成があって のことだ。上司や同僚、仲間に対する信頼感から来る安 心感があってこそ、そういえるのだろう。

新年は愛知東邦にとっても正念場、2010年を反転の年にするためにも、問題、課題そのものについて考えてみたところだ。

※ 柴田昌治氏:ビジネス教育会社設立。『なぜ会社は変われないのか』など著書多数。



続けられる「平和教育」、「慰霊の日」 勤労動員で命を落とした先輩の皆さんを悼む

師走を迎えた名古屋、空気は冷たいながらも日差しは暖かさを感じる日和でした。あの日、そうあの65年前の 冬、12月13日、勤労動員で三菱重工業において作業中の引率教員2名と生徒18名が、米軍機の直撃を受け命を断 たれました。これら諸先輩の皆様を慰霊する会が、12月8日、「慰霊の碑」の前で開催されました。

慰霊の会には、 当時「東邦商業報国隊」として動員された同級生「辰巳会」の方々や卒業生、 後輩の教職員や PTAの皆さんと生徒ら多数が参加し、黙祷と献花を行いました。

『東邦学園四十年史』の中にもこの殉難を「永久に忘れることのできぬ暗黒の一頁を加える日」と記しています。

「慰霊の日」、 東邦学園を代表して榊理事長は「教育活動を預かる者、今学びの途上にある者として、大切なことは各々が自立した志、他者を思いやる想像力、未来を見通す洞察力を着実に養っていくこと」であり、「激動の時代、私利や一国のみの利害に走ったり、暴力に暴力で返すようなことがないよう、この地から学園を、そして世界に皆様の思いを発して下さい」と挨拶されました。



黙祷中の「辰巳会」の方々や生徒たち

文部科学省の学生支援推進 受力 東プログラムに本学の取組が採択 を

3年生を対象に新しい就職合宿を実施

キャリア支援委員長 井上 秀次郎

大学等が工夫を凝らし、他の大学等でも参考となる「優れた取組」に与えられる今年度のGP*に、選ばれました。本学が卒業後のキャリアについて入学時から卒業まで、一貫した体系的な取り組みを行っていることが評価されたのです。

秋には3年生を対象に就職合宿を行いました。就職 意識を基にグループ分けを行い、学生参加型のプログ ラムを体験することで、個人の学生生活の振り返りと これからを考え、夢への道をつなげるものです。

※平成21年度文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」 【テーマB】学生支援推進プログラム

就職合宿は子ども発達学科10月31日~11月1日、人間健康学科11月28日~29日、経営学部12月5日~6日に行われました。人間学部の実施内容は次のとおりです。

緊張感漂う模擬面接

人間学部人間部健康学科長 石川 幸生

人間健康学科の就職合宿は予定どおり11月28日(土)、29日(日)、1 泊 2 日の日程で岐阜県にある郡上高原ホテルにて実施されました。学生は全員リクルートスーツに身を固め、緊張した面持ちで就職本番さながらに設定された模擬面接プログラムに真剣に取り組んでいました。与えられた課題に取り組む学生の様子は真剣そのものでした。限られた時間の中での研修でしたが一人一人充実した就職合宿であったに違いありません。これを機に学生の就職に対する取り組みが一層高まることを期待しています。

深い学び皆で共有した就職合宿

人間学部子ども発達学科長 古市 久子 10月31日・11月1日の2日間、郡上高原ホテルで子ど

も発達学科の就職合宿が行われました。出席者は54人の学生(出席率100%)に加えて、教員3人、キャリア支援の事務職員2人、外部講師2人です。リクルートスー

ツ着用、たばこ厳禁ということで、本番さながらの状況 で行いました。

内容は自分の将来像について考えることから始まりました。ビデオで全く経験のないことにチャレンジして成功する「あげ馬神事」の様子を鑑賞した後で、自分の将来像と学生生活の振り返りを、ディスカッションで行いそれを発表しました。ディスカッションは同じ目標や悩みを持つ人どうしで9つのグループに分かれました。外部講師から「大学生活について何か一点話せることの重要性」の講義を受けての学生の発表に、「今の時期においては、近隣の大学に比べて愛知東邦大学はレベルが高い」とお褒めの言葉をいただきました。

次に行ったのは、グループのワークショップで、最近の就職試験の様子を視野にいれての実践活動です。自分たちが選んだ人形を使ってお話を作り演じるものです。学生たちの集中力と豊かな創造力には感心してしまいました。グループ表彰と個人の表彰を行いましたが、どのグループもがんばりました。

翌日は3つの部(幼稚園・保育園・その他)に分かれて 面接大会をしました。写真は4人ずつの集団で行って いるところです。学生たちの答えに対して、面接官の指 導が厳しく行われ、非常に緊張感が漂う時間になりま した。

就職合宿の前には数回の打ち合わせを行いましたが、 講師の方には学生の授業風景を見ていただき、学生に 合わせた講義を考えていただくなど、学生ともども私 たちも真剣に取り組んだ2日間でした。

最後の学生たちの言葉です。「この合宿に参加して自 分の課題が見えました」、「今日学んだことを、必要なと きに思い出して、これからの学習にいかしていきたい です」など、深い学びを感じた就職合宿となりました。



学就職支援

インターンシップや 就職支援相談会

各種資格取得対策講座を実施

キャリア支援委員 橘 廣

資格取得は将来の可能性を広げ、就職活動も有利に 進めることができます。本学では、合格実績に定評のあ る専門の講師を招いて、大学内で低価格で受講できる 資格取得対策講座を開講しております。現在本学で開 講されている講座をご紹介します。

昨年10月から1月にかけて、中学校・高等学校教員採用試験対策講座が受講者29人、幼稚園教諭・保育士公務員試験対策講座が28人、マイクロソフトオフィススペシャリスト検定対策講座word編が24人で実施されています。

また2月18日~20日には、幼児体育指導者検定2級の資格取得講習及び検定が予定されています。これは 昨年8月25日~27日にも実施され、受講者39人全員の 資格取得で好評であったため、本年度2回目となりま す。これまでにも国内旅行業務取扱管理者試験対策講 座などが実施されており、新たな資格取得対策講座も 検討中です。

厳しい就職環境下の就職支援相談会

学務部就職課 池田 暁生

「フレンズ・TOHO」と就職課 共催「就職支援相 談会」が10月3日 (土)に開催されま した。本会は、意欲 的に就職活動をす



説明を聞く学生

るも、なかなか良縁に恵まれない学生の就職支援のために毎年秋に実施しているイベントです。昨年のリーマン・ショックは、未だ就職活動に深刻な影響を与えています。そんな中、愛知東邦大学の学生を意欲的に採用したいと表明して下さった、本学と縁深い6社を招き、31人(研究生を含む)の学生が人事担当の方と直接話す機会をいただきました。参加学生は皆真剣な表情で担当者から話を聞いていました。今後も引き続き卒業後の進路決定に向けた支援体制を充実させて取り組んでいきます。ご協力のほどよろしくお願いします。

就業体験 インターンシップ報告

キャリア支援委員 手嶋 恒介

本年度のインターンシップでは、38人の学生が8月から9月に各事業所でお世話になりました。今年度より人間学部生が初参加となり、研修先の新規開拓なども行われ、充実したものとなりました。とくに経営学部3年生の4人は、本学のインターンシップの特色のひとつである4週間の長期研修をやり遂げました。就職活動に向け、活躍が期待されます。

インターンシップ研修を終えた学生諸君のレポートは『インターンシップ報告書2009』として取りまとめました。 最後に、研修生を受け入れていただいた企業の方々に厚くお礼申しあげます。



大学の行事

2009年度「出愛」をテーマの和丘祭を終えて

生活支援委員 葛原 憲治



クロリティーチャレンジ大会優勝者たち

和丘祭(大学祭)は、 11月21日(土)・22日 (日)の2日間開催されました。22店舗の 模擬店に加えて、人 間学部と経営学部 の両学部合同のイン

ターンシップ報告会、人間健康学科ではゼミ研究展示会や「クロリティー」チャレンジ大会、子ども発達学科では折り紙展やキッズ広場など、学部・学科の特徴を生かしたイベントも加わり、今までの模擬店中心の大学祭とは趣向が異なり面白い大学祭だったと思います。

また、今回は体育館の屋内ステージから屋外ステージを中心としたイベントが開催され、本学の吹奏楽団による演奏、お笑いライブ、軽音楽部やアマチュアバンドの演奏、カラオケ大会、フリースタイルのダンスパフォーマンスなど、充実した企画で参加学生たちの評価も上々だったと思います。数あるイベントの中で秘かに人気があったのが、ATTO(愛知東邦トレーナー組織)主催のリラクゼーションマッサージでした。学生・教職員をはじめ、地域の方々やお笑いライブに出演した芸人さんもマッサージを受け、低料金で身体を癒して去れたことで非常に好評だったようです。毎年、進化を続けている和丘祭ですが、今年度の反省を糧に来年度はさらなるステップアップを目指してより魅力ある大学祭にしてもらいたいと思います。

教職課程履修 順調に進行中

学務部学修支援課 志水 廣己

教職課程履修の1期生となる経営学部4年生では、 2人が、『高校商業』の教員免許取得に向けて教育実習 も終え、今は愛知県教育委員会へ免許申請手続きの段 階に至っています。

一方、人間学部での履修1期生となる現3年生には、 人間健康学科に中学・高校『保健体育』の免許取得に向 けて40人程が、子ども発達学科に『幼稚園教論』免許取 得に向けて50数人がいます。また、経営学部で『高校商業』免許取得を目指す学生も数名います。

......

学生たちは連日のように学修教育支援センターに顔を出して、介護等体験実習(中学免許に必要)や幼稚園・保育園実習等の事前打合せや事後報告に、元気のいい会話をしていきます。介護等体験実習後「教員になるからではなく、人間として必要な体験だった」と受けとめた学生、幼稚園実習後「不安な気持ちから是非やってみようという気持ちに変わった」と語る学生など、誠実で意欲的な学生たちに支えられて、教職課程履修は順調に進行しています。

昨年は2人だった"中·高免許取得を目指す"教育実習も、2010年度は40名程に増えます。大学としての対応も、特に人間学部·各学年には中高·幼保双方に数10名ずつの教員免許取得希望者があり、完成年度の就職活動支援も含めて忙しくなります。中高·幼保双方の教職課程を持つ大学として真価が問われる時間が続きます。

人間健康学科1年生 キャンプ実習

人間健康学科専任講師 長谷川 望

本年度も人間学部人間健康学科の1年次の導入教育として、「野外活動実習」に長野県湯の丸高原に行ってきました。活動内容はテント泊や野外炊事、イニシアティブゲーム(課題解決のゲーム)や登山、 キャンドルサービスなど様々あります。その活動を通して自分や仲間を見つめなおす貴重な体験をすることができました。

この実習で絆を深めた仲間たちと充実した4年間を 過ごしてもらいたいと心から願っています。また、1年 生にとって良い体験となるように自主的に参加してく れた、人間健康学科3年生の学生スタッフが目を見張 る活躍をしてくれました。1年生も大学生活を一日一 日大切にして、先輩学生として活躍する日を心待ちに しています。



野外活動実習で登山

高校の行事

文化祭&体育祭

2009年度生徒会書記(1年K組) 桑原 淳



文化祭、クラス出し物の和太鼓

9月の終わり、 僕は初めて東邦 高校での2つの 大きな行事、文 化祭と体育祭を 体験し、全校生 徒が力を合わせ 互いに協力しあ

い、この大きな行事を成し遂げるパワーに圧倒されました。 文化祭のクラス企画では、各クラスが一人一人の生 徒の努力で企画を完成させていることを感じました。 和太鼓では、夏休みも毎日汗を流しながら協力し合い、 練習してきた成果が表れていて、太鼓の音が体の隅々 まで伝わっていき、涙が出るほど心に響きました。

部活発表では、ダンス部のオープニング、交流の広場 での演技披露を目にし、身体を電流が走るほど感動し ました。演劇部のみなさんもすばらしい演技で観客を 楽しませてくれました。

また、校舎内に展示してあったカウントダウンボードやモニュメント、階段アートは学園祭を盛り上げようと生徒会執行部と学園祭総務が多くの時間と労力をかけ企画制作しました。「つながり」を感じる本部企画「東邦フレンドパーク」も会場を沸かせました。

翌週の体育祭では、各団による激しい戦いが繰り広げられ、特に男子1500mでは最後まであきらめない強い男子同士の熱い戦いとなりました。応援合戦も工夫が凝らされており、各団が優勝するために"精一杯力を出し切り頑張る"という姿がとても輝いて見えました。

文化祭も体育祭も心に残る行事となり、また来年が 楽しみになりました。

第17回 未来の芸術家たち展

美術科教諭 竹田 正美

10月20日(火)~10月25日(日)の6日間、愛知県芸術 文化センター8階H・Iギャラリーにて、〈美術科〉日本 画専攻16人、油絵専攻13人、彫刻専攻5人、デザイン専 攻10人、〈商業科〉グラフィックデザインコース15人 = 総勢59人による「未来の芸術家たち展」 = 卒業制作展が開催されました。連日、近隣芸術大学や美術専門の方々をはじめとし、多面分野からの来館者で賑わい、総入場者数が1,840人となり大成功を得ました。これまでの生徒に関わり、保護者の皆様をはじめとし、ご協力を賜りましたすべての方々に厚くお礼を申し上げます。

......



入口からの会場風景(関連写真 裏表紙)

ロケット体験教室~夢をあきらめない~

高校教諭 野崎 久美子

9月21日(月)、 宇宙開発技術者 植松務氏による ロケット教室が 東邦高校で行わ れました。全国 から集まった小 学生達を3年理



校庭でのロケット体験教室

数コースと科学研究部の生徒がサポートして、カムイロケットを作製し、最後はグラウンドで打ち上げ実験。 大成功に終わり、皆笑顔にあふれていました。

学校説明会



真剣に説明を聞く中学生

東邦高校に入学を希望する生徒向けに本校の良さを知ってもらうための学校説明会が始まりました。本校では、より細やかさを考え10月24日(土)を皮切りに

5回実施されました。中学生も対応する側も真剣その ものでした。

111 国際交流





中国語留学は楽しい!

大学 経済学部3年生(雲南大学留学中) 服部 未幸 私が中国に留学してからもう4ヶ月以上経ちます。 留学の決定が急だったので準備が万全でなく、最初は 不安な状態でした。でも、困っていると声をかけてくれ る学生、日本語を学んでいる学生、中国で暮らしている 日本人、同じ留学生仲間など多くの人に助けられ、今で はとても楽しく生活することができています。

授業は東南アジアをはじめ、欧米各国、その他いろいろな国の人が学びに来ています。ほとんどのコミュニケーションが英語であるため、はじめは戸惑いました。しかし、留学生は年齢層も幅広く、フレンドリーな人が多いので授業の雰囲気も良く、すぐに親しくなれました。授業以外でも、一緒にご飯を食べに行くなど多くの国の人とふれあえるのも留学ならではだと思います。中国は世界遺産や歴史的建造物も多く、休日を利用して見学することができます。いろいろな人との出会いが、ものの見方や考え方を広げてくれた気がします。

留学をしてみて改めて感じることは、家族の大切さでした。私がこうして留学できているのは家族の支えが大きく、 先生方や友達に対しても感謝の気持ちでいっぱいです。留学を通して中国語を学ぶだけでなく、いろいろな人に支えられていることに気づきました。また、多くの人と接することでコミュニケーション能力も高まるのではないかと思っています。

留学が自分自身を成長させる大きなきっかけになり、 ここで得た経験が今後の生活の中で生かしていければ と思っています。慣れてしまえばあっという間ですが、 残りの留学生活を楽しみたいと思っています。



服部さんが学ぶ雲南大学留学生センター本館

₩

国際交流室だより

高校 国際交流室 河野 芳江

1学期間の留学生活を終え、南京外語の全君と王君は帰国しました。全君は日本語スピーチコンテストで、優勝したそうです。修学旅行中の再会は感動でした。



中国で再会を果たした東邦生

夏休み中のニュージーランド英語研修には10人が参加。新型インフルエンザの心配も無く、みんな無事帰国。 仲良しの生徒たちとの再会を楽しみました。

9月16日には、オーストラリアのウエストバーングラマースクールから22人が来校し、3年間の蓄積を持つ3年L組(国際)と手慣れた交流を楽しみました。

11月9日には、台湾羅東高級商業学校の32人と2年 J組との交流会を実施。歌や踊り、オーストラリア生 にも好評であった着付けで盛り上がりました。英語や 筆談、ジェスチャーで交流を深め、「とても楽しかった。 もっとこういう国際交流の機会を増やして欲しい」と いう感想でした。

マリアンに留学中であった大西桃以さんも元気に 帰ってきました。



台湾の羅東高級商業学校との交流

地域創造研究所

地域創造研究所副所長 松村 幸四郎

当研究所は地域社会に貢献することを目指して、活動を行ってきました。研究所の活動は、当研究所研究員により構成される研究部会を通じた研究活動への助成と、秋季に開催される講演会が大きな柱となっています。研究部会は「地域に根ざした研究である」という条件の下で、特定の分野に偏らないように設置され、幅広い研究が行われています。そのうちの一つ地域スポーツ研究部会の成果は「地域創造研究叢書12」として出版されました。今後も地域に根ざした研究活動を展開して行きます。

COP10パートナーシップ事業講演会 「地域から見た地球環境問題」



研究所では、例年秋に「地域」という視点からさまざまな問題をテーマとした講演会を、「フレンズ・TOHO」をはじめとする関係各所からのご協力を得て企画・開催して

います。今年は11月19日(木)名古屋ガーデンパレスに 於いて、「地域から見た地球環境問題」について、愛知県、 名古屋市の後援を得て開催いたしました。

地球規模の広がりをみせる環境問題を、地域の視点・ 身近な視点から考えていただける内容とするために、 我が国において早くから環境の問題を経済学的な視点 から分析されてきた環境経済学がご専門の京都大学大 学院教授の植田和弘先生、および環境カウンセラーの 浅野智恵美先生をお招きしました。環境問題を国際的 な動向をふまえながら、わかりやすくご講演いただけ、 好評でした。ご来場の皆様の真剣な眼差しがこの問題 に対する関心の高さを物語っているように感じました。 当研究所では皆様のご意見を頂戴しながら、今後も

下出義雄氏焦点に 2つの資料展とシンポジウム開催

こうした講演会を開催していく予定でおります。

地域創造研究所研究員 森 靖雄

地域創造研究所では、11月21日(土)10時30分から夕 方まで「第3回下出文庫ミニ資料展」、同日13時30分から3時間にわたり「第3回下出文庫シンポジウム」を開催しました。下出文庫は、本学園創設者の下出民義氏の長男で、初代学園理事長でもあった下出義雄氏の膨大な収集資料です。昭和初期を中心に産業から政治・生活にわたる幅広い資料が集積されており、本学園に寄贈されて整理・公開されています。

東邦学園のルーツは?

今回の資料展は「①東邦学園は誰がなぜ始めたのか?展」と「②創立者=下出民義・義雄氏はどういう人



だったのか?展」の2企画展を併催しました。①では主として創設者である下出民義氏の発電事業や大同特殊鋼の創設、東邦商業学校の創設から大学創設までの学園史を写真で追う内容。②では東邦学園を実質的に運営しつつ中部の産業界をリードし、政治家・教育者でもあった下出義雄氏の業績を中心に、関連資料を展示しました。

戦時下の産業界・政界を議論

シンポジウムでは、大正末期から終戦までの約20年間における愛知の産業界・政界を描き出す内容で、この時期の研究者がそれぞれの専門分野から報告しあいました。「ものづくり愛知」の基盤は昭和初期の戦時下で形成されましたが、機械分野でのトヨタやオークマにエネルギー源や素材を供給した福沢桃介氏や下出民義・義雄父子の役割などについて、専門的な研究の成果が交わされました。

この時期の研究報告がこうして交流される機会は少ないため、今回は本学から3人をはじめ4大学から7人の研究者が報告されました。この成果は、本年度末までに「地域研究叢書13」として出版される予定です。



- ◎ 業界別セミナー・学内企業展
- ◎ 第7回クラブ・サークル対抗 ボーリング大会を開催
- ◎ 第3回FD研究会
- ◎ 「緊急経済支援給付奨学金」 制度を実施

高校

- センター試験
- ◎ 推薦入試

月

2

月

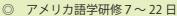
3 月

4

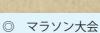
月







- ◎ 名東カルチャーゾーン構想 シンポジウム
- ◎ 就職合宿
- ◎ 卒業研究報告会
- ◎ 第2回下出文庫シンポジウム
- ◎ 入学前セミナー



- ◎ 卒業式









成21年度 世知東州大学 人学店

◎ 卒業式



◎ 終業式







- ◎ 新入生オリエンテーション
- ◎ 講演「スウェーデンの教育に ついて」



- \bigcirc 始業式、対面式
- ◎ 2・3年生遠足
- \bigcirc 1年生学級合宿
- ◎ 国際交流:姉妹校4校が 東邦で交流



- ◎ 名東の日区民まつり
- ◎ 資格対策講座 Excel



- ◎ 名東の日区民まつり
- ◎ 開校記念行事
- ◎ PTA 総会





◎ 教育懇談会

6 月

- ◎ 1年生保護者向け進路 ガイダンス
- ◎ 3年生進路ガイダンス
- ◎ 防災訓練

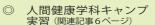


2009

学

救急処理法講習



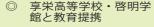


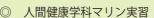
実習 (関連記事6ページ) インターンシップ (関連 記事5ページ)

学生企画 TOHO 少年サッカー(関連記事 13ページ)

国内旅行業務取扱管理者講座 保育士・幼稚園教諭・

公務員対策講座 享栄高等学校・啓明学

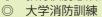




(関連記事 12 ページ)

教育個別懇談会





○ 中学校・高等学校教員 採用試験対策講座

就職支援相談会 (関連記事5ページ)

自己点検評価報告会

講演会「地域から見た 地球環境問題 |

> (関連記事9ページ) 大学祭 (関連記事6ページ)

第3回下出文庫シンポ ジウム (関連記事9ページ)

◎ 経営学部ゼミナール大会

生徒会主催の競技大会

名東区福祉教育セミナー

終業式

夏期補習

美術科夏期講習会

月

ンパス

関

ニュージーランド英語研修

8/13

普通科・商業科1日体験 セミナー

夏期補習

始業式

 \bigcirc

 \bigcirc





文化祭 体育祭 (関連記事7ページ) 部活動見学会 オーストラリア・ウエスト バーングラマースクール 来校交流

10 月

9

月

1年生保護者向け進路

インフルエンザで学校 閉鎖6~9日

第 17 回未来の芸術家 たち展(関連記事7ページ)

中学生英語スピーチコン テスト (関連記事13ページ)

商業科グラフィックデ ザインコース説明会& 体験講習会

台湾羅東高級商業学校 来校交流

慰霊の日(関連記事3ページ) ◎ 終業式

校 説 明 会



未来の芸術家たち展



12 月





月

就職合宿

(学科

実施

(関連記事4ペ

ガイダンス

修学旅行

2年生保護者向け進路 ガイダンス



キャンパス短信



「21TOHO教育充実事業募金」~ご協力に深謝?

21TOHO教育充実事業募金事務局

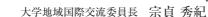
学園では教育環境整備、施設設備の充実、教育研究活動の奨励に取り組むため、21TOHO教育充実募金活動を展開しております。これまでにも多くの方々から多額の募金を頂戴し、高校新校舎の建築や大学新学部の増設およびグラウンド新設のための資金として運用させていただいております。

また昨年10月には、高校8回卒業生の仲正興氏が本校を訪問された折、300万円のご寄付を頂戴いたしました。皆様方からのご支援に対しては、「人格教育」を重視する建学の精神に立った21世紀に有意な人材を育て、卒業生が実業界をはじめ各界で活躍することで恩返しさせていただきたいと考えております。



<u>دی پر</u>

地域懇談会の開催



9月18日(金)に、東邦学園(愛知東邦大学、東邦高校)は、近隣地域の平和が丘学区連絡協議会、近隣自治会、施設、交通防犯委員会、名東区役所まちづくり推進室の方々にご出席をいただいて、学園に通う「学生のふるまい・行動」や「学園の施設・設備」に関する意見をいただきました。

学園が地域と共に歩み、地域を創造するという観点から例年開いているものですが、 近隣生活者からは、「以前と比較すると学生のふるまいや登下校も格段によくなった」「先生方の指導が行き届いていると感謝している」という声も出されました。一方、「災害時には高校の施設に限らず大学の施設・設備利用に関する協力要請、合同避難訓練なども実施したいですね」という積極的な意見も出され、耐震構造棟に関する施設の現状に係わる意見交換も行われました。



ું. જે. <u>*</u>

享栄高等学校・啓明学館と教育連携

愛知東邦大学は新たに享栄高等学校・啓明学館高等 学校の2校と教育連携について提携しました。今後は 教育分野の講座やガイダンス等を企画し、連携を図っていきます。





享栄高等学校との提携

啓明学館高等学校との提携



日本とアジアとの架け橋となる「人財」

学務部就職課 貫名 下樹

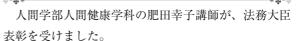
今年度、本学経営学部生 孫 瑞さんが「アジア人財 資金構想」という経済産業省と文部科学省の共催事業 に、厳しい選考基準をクリアして見事合格を果たしま した。

アジア人財資金構想とは、日本とアジア等の架け橋 となる高度専門人材を育成し、アジア及び世界中の人 材育成と日本企業の競争力強化に貢献することを目的 とした事業です。

本人も、母国中国と日本との架け橋となるために日 夜厳しい研修に励んでいますので、今後ともご支援の 程、よろしくお願い致します。



人間学部肥田講師が大臣表彰



肥田講師は、臨床心理士の資格を持ち、1995年から瀬戸少年院で出院間近かの少年たちを対象に、人間関係や家庭などで適切な対応が出来るように指導してきました。今回この長年の活動がみとめられ、法務大臣表彰となりました。







学生企画のTOHOサッカーの催しを開催

「第3回愛知東邦大学杯少年サッカー大会」(後援:中日新聞社、中部ケーブルネットワーク(株)、日進市サッカー協会)が、8月2日(日)本学日進グラウンドで開催されました。この大会は、経営学部の学生が企画・運営し、本学日進グラウンド近郊の小学校5・6年生少年サッカーチームが参加しました。

大会終了後、 同グラウンドで「TOHOサッカーフェスティバル」が開催されました。

このイベントは、人間学部の学生が企画したもので、 長谷川ゼミの学生と女子サッカー部のメンバーが運営 にあたりました。当日は雨にもかかわらず、本学日進グ ラウンド周辺の少年サッカーチーム38人の元気なキッ

ズが参加。簡単 なゲームやボールを使ったが びなど、最後に サッカーのミニ ゲームを行いま した。



中日新聞記事(2009年9月8日)



青空のもと消防訓練実施

9月16日(水)13時から教職員を対象に消防訓練が行われました。今回は初期消火の重要性を認識するためのDVD研修と消火器・消火栓を実際に使用した消火訓練がありました。



消火器の使い方を学ぶ教職員



読み聞かせコンクール開催!

10月27日(火)、読み聞かせコンクールが図書館で開催され、子ども発達学科の学生5人が参加しました。登場

人物になりきり学生たち の熱演に、聴いていた人 たちも絵本の世界へ。

図書館長賞は小林崇明 さんが獲得しました。

読み聞かせをする学生





美術科教諭 竹田正美氏が 、国際木彫シンポジウムで1等賞受賞

ドイツで行われた第14回国際木彫シンポジウムで、



竹田正美教諭が 1等賞を受賞しました。3体は「明史」といい。3体は「明史」のは「明ののな」と評価され、現地新聞でもれ、現地新聞した。

ザクセン州フォグトランド新聞記事 (2009年8月3日)



中学生が流暢な英語を披露 ~英語スピーチコンテスト~



英語科教諭 伊藤 保憲

10月31日(土)、中学生英語スピーチコンテストが行われ、100人の中学生が英語力を披露しました。この企画は、英語や国際社会に強い関心を持つ中学生に、日ごろの学習成果を発表する場を提供しようと始めたもので、国際社会に羽ばたく子どもたちに東邦高校がいかに貢献できるかを考えた企画です。

今年度で4回目を迎え、年を追うごとに出場者の英語のレベルが上がり、大変中身の濃い、充実したコンテストとなりました。英語だけでなく、英語以外の表現力も高まり、どの発表も甲乙つけ難い内容となっていました。100人の出場者のあるコンテストは数が少なく、このコンテストの出場者にとってはもちろんのこと、その場に参加したすべての人にとって大きな学びの場となりました。

なお、このコンテストは毎日新聞社、シンガポール航空、名古屋日豪ニュージーランド協会、「フレンズ・TOHO」の各企業団体のご協力を得て開催されました。

匀ラブ活動 、、、、、、、、、 高校

情報処理部 パソコン甲子園2009年

第7回全国高等学校パソコンコンクール本選大会に出場することができ、福島県会津若松まで行ってきました。

情報処理部では夏休みを使い作品を作り、応募してきました。昨年度は、「一枚の絵CG部門」で佳作に入選し、今年度は、「デジタルコンテンツ部門」で本選に出場することができました。デジタルコンテンツ部門は、テーマに基づくWebブラウザで閲覧可能な作品ということで、部活ではフラッシュという動画ソフトを使い、2年C組の木戸岡聖が作り、大会当日1年L組の伊藤拓磨が作品のプレゼンテーションを行いました。テーマは「未知なる生命体」ということで、作品を作る方も、プレゼンをする方もいろいろ悩みながら作品を完成させました。残念ながら入賞はできませんでしたが、前日の交流会や、他校の作品を見ることができ、貴重な経験ができたのではないかと思います。

水泳部 今シーズンを終えて

水泳部監督 渡邉 素幸



_L ^> +0

水泳部は今年もインターハイへ参加することが出来ました。特に2年生の山田琴絵(猪子石中)は女子800m自由形において決勝に進出することが出来ました。結果は10位でしたが、初決勝レースにもかかわらず積極的にレース展開し、今までの苦労が報われる泳ぎでした。

また、3年生の櫻井亜衣(若水中)は、強豪が競う女子自由形短距離において愛知代表として国体へ参加しました。初めての参加でいささか緊張気味でしたが、思い切りのあるレースをすることが出来ました。

このように活躍出来たのも、皆さんの応援があったからだと思います。お礼申し上げます。

サッカー部 **"夢をつかめ**"

サッカー部監督 横井 由弦

春から開催の県ユース1部リーグは、1位岡崎城西、2位高蔵、3位東邦に終わり、来季の 東海プリンスリーグ入りはお預けになりました。(1位岡崎城西が昇格する)

秋からはいよいよ高校選手権大会の開幕です。第1シード東海学園、第2シード名東、第3シード中京、第4シード岡崎城西。東邦はシードに入っていませんが、虎視眈々と6年振り4回目の全国大会出場を視野に入れ御殿場遠征の最終調整を行いました。

東邦高校サッカー部のスローガン「東邦魂で夢をつかめ」を合い言葉に今年の挑戦が始まります。皆さんの熱い声援をよろしくお願いします。



気合十分!

吹奏楽部 全国大会3年連続出場を達成

高校吹奏楽部顧問 白谷 峰人



全国大会出場を決めた

-300%

今年度、吹奏楽部がマーチング全国大会に出場できる可能性でした。

「もう一回」「もう一回」、延々と繰り返される基礎練習。集中力を研ぎ澄まし、何度も何度も繰り返す。基礎力が欠落した状態でスタートしたマーチング練習は辛く長くゴールの見えないものでした。

その中で「全国大会で東邦のマーチングを魅せる」という目標に向かい、効率よく効果的に練習を進めるためのシステム作りを始めとして、少ない練習時間を有効的に使うためのグループ分けやメニューを作り、毎日必死に練習してきました。

あきらめなければ夢は叶う。やればできる。やらなければなにもできない。やったからできた。そうした練習の成果が徐々に現れ始め、夢の全国大会への切符を手にしました。-300%を+300%にした東海大会でした。

全国大会では過去の先輩たちが築いた伝統を引き継ぎ、自分たちのショーに自信と誇りをもって、出演順1番のプレッシャーにも負けず、堂々と魅力ある演奏演技を披露しました。

今年で3年連続の全国大会出場。激戦区の東海地区で偉業達成です。当然のことながら、いつも陰ながら応援してくださっている方たちへの感謝の気持ちを忘れず、よき伝統を引き継ぎこれからも精進していきます。

いつも応援ありがとうございます。これからもがんばります。

バトントワリング部 創部25年目、10回目の全国大会出場へ バトントワリング顧問団

バトントワリング部は、本校が男女共学となった1985年春、女子生徒の部活動の受け皿のひとつとして創部されました。 今年度は創部25年目の節目の年、10月31日に行われた東海大会・ポンポン編成部門で、東邦チームは『情熱大陸』の曲にのせて32人の全部員がテーマ『熱い風』で熱演し、見事1位の成績で7年連続10回目の全国大会出場権を得ました。全国大会は1月9日に千葉市の幕張メッセで開催されます。

今年のチームで特筆したいのは、4月に入部した1年生15人全員が途中退部することなく活動に参加し、東海大会の晴れ舞台で堂々と踊りきったことです。1年生から3年生まで全員がレギュラーとして演技する東邦チームにとって、素晴らしく嬉しいことでした。

30m四方のエリア全体を使って3分30秒の集団演技をするため、体育館を全面使用しての練習が不可欠になります。高校・大学双方での体育館練習に際しては、関係する部活動の皆さんに多大なご協力をいただきました。この紙面をお借りして、あらためて心から御礼を申し上げます。(関連写真 裏表紙)

東邦の野球といえばやはり硬式野球が注目され、全国屈指の伝統校であることはご承知のとおりです。一方軟式野球部はかつて全国選手権と国体への出場が1回ずつあるものの、県大会の上位進出を果たせない時期もありました。ところが一昨年、軟式野球部が秋季東海大会に初出場初優勝を果たしました。夏の東海大会にも久しぶりに出場しておりましたので、まさに躍進の一年でした。

伝統の深紅の優勝旗は1年間校長室に飾られ、全員でこの旗を返還することを新たな目標にしました。新チーム結成当初は全ての面で劣っており、県大会を勝ち抜くどころか地区予選での戦いにも不安がよぎりました。しかし、意識の高い選手の成長は目を見張るものがあります。特に、伊藤新主将のキャプテンシーや1年生エース山根の精神力は見事にチーム力を引き上げ、2年連続で愛知県代表として東海大会出場を決めました。

10月31日伊勢市営球場での開会式で、秋季東海大会の優勝旗は返還しました。次にこのチームが狙うのは夏の東海大会制覇です。軟式野球の全国大会は夏に一度しかありません。軟式野球の聖地である明石への道は夏の戦いにかかっているのです。軟式野球界の甲子園である明石球場で、TOHOのユニフォームが30数年ぶりに躍動することを夢みて、今後も野球の神様とともに彼らを見守っていきたいと思っています。

(今回の東海大会の戦績:三重県代表鈴鹿高校に1対0で勝利、岐阜県代表の中京高校に0対2で敗退)

陸上部 TrackをField そして駅伝へ

陸上部顧問 茶谷 和彦

名古屋支部選手権で、4×400mリレーに2年生と1年生の混合チームで出場した短距離男子は、4組1位に入り、今年度最後の大会を有終の美で飾りました。一方、長距離男子では、2年生の奥村周平選手が東海新人1,500mに初めて出場し、 県高校駅伝では第3区を担いました。2月7日名岐駅伝の出場権をかけて彼らは走り続けます。ご声援お願いいたします。



県高校駅伝(奥村選手)

平和が斤祭りに参加して

高校1年L組 國枝 俊樹

11月1日(日)、平和が丘祭りが開催され例年のように東邦高校も参加しました。来場者が多く、中でも子ども連れの人が多く見られました。

祭りには焼きそばやたこ焼き、綿あめやバザーなどの出店があり、子どもたちがバザーで買ったおもちゃを 使って楽しそうに遊んでいました。

ステージプログラムに東邦高校から司会として生徒会の深田君と小林さん、部活発表として吹奏楽部・合唱同好会・科学研究部、そして東邦生徒会の2人と他校の生徒を含め8人が群舞メンバーとして参加しました。 吹奏楽部は統率された動きと迫力のある演奏を、合唱同好会は元気な美しい声で盛りたてました。科学研究部 は観客の子どもたちと楽しいトークを作り上げ、群舞はみんな息の合った格好良い踊りを披露してくれました。 餅投げにはたくさんの人が参加し、僕たち生徒会執行部もお手伝いしました。みんな飛んでくる餅を取ろうと必死で手をのばしていました。こうして、平和が丘祭りはとても活気のある楽しいものになりました。

クラブ活動 、、、、、、、、、、、 大学

硬式野球部 意願仍 2 部昇格決定!

経営学部4年 片山 智多

11月3日(火)名古屋学院大学との入れ替え戦を終え、私は野球部を引退しました。振り返れば、4年前同期で入部した部員は私を含めて何人かいましたが、4年生の最後まで続けていたのは私とガンチャン(岩本 瞬君)の2人だけでした。

本学野球部は、私が入学した年から強化指定クラブとなり、1年目の秋季 入れ替え戦で3部に昇格しましたが、その後は残念ながらあと一歩という ところで2部との入れ替え戦に進出することができませんでした。

しかし、4年生最後のシーズンで念願の入れ替え戦の切符を手に入れ、 チームが一丸となって2部昇格を決めることができました。

私たち4年生の大学野球は終わりましたが、今後は一OBとして野球部の 活躍を陰ながら応援していきたいと思います。4年間、本当にありがとうございました。



昇格決定を喜ぶ選手たち

軽音楽部 学外ライブ開催

軽音楽部顧問 河村 官明



ライブ風景(ライブハウス トーラスにて)

8月11日に愛知東邦大学軽音楽部の学外ライブイベントを行いました。場所は新栄にあるライブハウストーラスです。東邦関係の7バンドが出場し大変盛り上がったイベントとなりました。出場者は1年生が多かったため、ライブハウスでのライブ、またはライブそのものが初体験の人間も多く、緊張のため途中で演奏ができなくなってしまうなどのハプニングもありましたが、概ね成功といえるものでした。2年生以上のバンドはさすがに経験を積んでいるため、迫力あるパフォーマンスを見せてくれました。今後もライブハウスでのイベントは続けていきたいと思います。

フリースタイル部 進化したFREESTYLE!

経営学部4年 一川 拓也

11月3日、愛知東邦大学のダンスサークル、フリースタイル部全員で藤が丘祭に出演しました。これまで部員同士でチームを組んで、様々なショーやバトルに活発に参加してきましたが、フリースタイル部員全員で、大学祭以外のイベントに出演したのは初めてかもしれません。今回は全員が力を合わせて一つのショーを作り上げました。イベントでは日頃の練習が生かされ、素晴らしいダンスができたと思います。みんなの表情も楽しそうでした。私が卒業する前に、フリースタイル部がこんなにも発展して、幸せに思います。これも部員たちのおかげです。ありがとう!



フリースタイル

サッカー部 サッカーを通じて成長

人間学部1年 山口 翔大

僕たち男子サッカー部は藤川監督の指導のもと、日々熱心に練習に取り組んでいます。サッカー部としての歴史はまだまだ浅いですが、今確実に力をつけてきています。



サッカー部員募集中!

愛知東邦大学のサッカーは運動量の豊富さを活かし全員が動いて組織的にボール を奪い、早く正確にパスを回して攻撃するというスタイルです。

大学の長期休暇の期間には合宿などを行い、体力面・技術面・メンタル面などの向上を目的に色んな経験を積みながらレベルアップに励みます。活気があり、とても楽しいクラブです。やる気のある方、サッカーに興味のある方はぜひ入部してください。

近況は、第8回愛知学生サッカーリーグ戦を優勝し、東海大学サッカーリーグ戦2 部の愛知工業大学との入替戦に敗れました。次年度こそは、東海大学サッカーリーグ 戦2部へ昇格したいと思います。

吹奏楽団 ~届け! 若き魂の響き~ 吹奏楽フェスティバル後記

吹奏楽団コーチ 野田 雄一

去る11月15日(日)名古屋市栄のオアシス21にて、愛知県吹奏楽連盟主催の吹奏楽フェスティバルが行われました。我々愛知東邦大学吹奏楽団は2度目の参加でした。

昨年度とは趣向を変え、今年は愛知教育大学吹奏楽団、中京大学文化会吹奏楽団と共に大学3バンド合同で総勢57人がステージに立ちました。

初めて体験するフルサイズのバンドに初めは緊張気味だった団員も、練習を重ねていくうちに本当に多くのものを学んでいきました。又、数えるほどしか練習を行えなかったものの、その短い時間の中で普段は全く違う活動をする者同士が、一つの目標に向けて共に音楽を創り上げていく喜びを味わうことが出来ました。



他大学と合同演奏する吹奏楽団

本番では、こうした練習の成果を発揮する響きを会場いっぱいに満ち溢れさせることが出来ました。普通に生活するうえでは出会うことの無いもの同士が音楽を通じて互いを認め合い、一つの目標を達成するという貴重な経験を積むことが出来ました。終了後、多くの方から励ましと賛辞の言葉を頂戴しました。今後も愛知東邦大学吹奏楽団の活動を温かく見守ってください。

【直近の演奏スケジュール】 平成22年1月24日 アンサンブルコンテスト愛知県大会(知立市文化会館パティオ池鯉鮒) SAX三重奏「キャラバンの到着」M – ルグラン作曲 野田雄一編曲

昨年に引き続き今年も大会に出場します。応援よろしくお願いいたします。

オープンキャンパス

在学生が受験生に伝えたい愛知東邦大学の魅力

子ども発達学科長 古市 久子

例年行われているオープンキャンパスでは学生が手伝ってくれていましたが、今年度になって大きな変化がありました。それは、在学生たちが愛知東邦大学の子ども発達学科の良さを真に受験生に知らせたいと、積極的に参加してくれたことです。とくに3年生は1・2年生に学科の意味を伝えていきたいという気持ちで、学科説明の補助や模擬授業のリハーサルを行い、その中で交流を深めてくれました。

【参加学生のコメント】

- 人前で手遊びをやってみるのは、すごく勇気が必要だった。皆がいたから気持ちが少し楽になった。 (2年生)
- ・学生だけで楽しむことはいけない。高校生に対して、声かけや気配りをして緊張感をほぐしてあげることも 大切だと思った。 (3年生)
- 1 · 2年生が出席してくれたおかげで気持ちが楽になった。一生懸命している姿勢をみて、初心に振り返って出来た。 (3年生)



「フレンズ・TOHO」は 東邦学園とタッグを組んで

大学の「知」を地域や社会に還元することは、使命の一つでもあります。「フレンズ・TOHO」の会員にとって、愛知東邦大学を介し、その知を享受できることは、大きな喜びと楽しみでもあります。

「中国雲南省の観光と産業」^①をテーマに講演会を行いました。中国は「近くて遠い国」であるのかもしれません。日本の私たちは、中国を「遅れた国」として認識している人が少なくないようです。この講演を通じ、ドラスティックに変貌する中国をここでも見る気がしました。

経済的にも政治的にも中国が大きく変わってきていることが最近のニュースで印象付けられます。アメリカのオバマ大統領は、駆け足の日本訪問後、中国で異例の長期滞在を行い、中国重視の姿勢を世界が知ることとなりました。

「フレンズ・TOHO」会報紙[®]に掲載の「会員インタビュー『個人だけが豊かになる時代は終わった』(㈱友和製作所代表取締役 仲 正興 氏)」にも、中国の強さが語られています。自動車産業は「価格競争では勝てない。どう付加価値をつけるかを考えないと。…優秀な人材だって、中国は多い」と。

今年度の「フレンズ・TOHO」中間総会で、 遠山昌夫会長は「世界経済をめぐり、 アメリカと中国を 2 軸とした大きなうねりが起きつつある」(メッセージより)とも。

東邦学園は、中国に注目し中国との関係を重視[®]してきました。東邦高等学校の2年生が中国へ修学旅行に行くようになってすでに長く、大きく変わりつつある中国を目の当たりにした若者が多くいます。愛知東邦大学の学生もインターンシップや留学先に中国を選び、数名の若者が行っています。

- ① '09年9月に実施した学内ミニ講演会。副題:観光の雲南 から対亜経済拠点へ。講師 森 靖雄 氏
- ② 「みどりの風」第28号
- ③ 友好提携校 南京外国語学校(1988年に東邦高校と)、 雲南大学(2002年に愛知東邦大学と)

時代を先取りする「フレンズ」の活動

『地域からみた地球環境問題』をメインテーマに愛知

東邦大学「地域創造研究所」と共催で講演会を行いました。CO₂の排出により地球の温暖化が進行し、生物の多様性が危うくなってきている現実を改めて実感する機会となりました。学園内外の関心も高く、環境問題に関わる愛知県職員の参加や企業関係者の参加もありました。

環境問題はエネルギー問題を抜きには語れぬこと、 そしてエネルギー問題は「経済問題」でもあることを認

識させられる講演 でもありました。



大学・短大同窓会 一有志で模擬店参加一

事務局 稲垣 ゆかり

今年度の大学祭は、若い同窓会役員たちの有志により模擬店を開くことになりました。純粋に「もっと大学祭を楽しみたい」との意見から、 例年参加している野菜の販売店に加えてそば屋を開くことになり、サブメニューにはホルモン焼を用意しました。 今年の大学祭は各イベントにたくさんの人が集まっていたように思います。おかげでホルモンは早々に「完売御礼」を出すことができました。

また、大学祭の合い間に榊理事長にお会いすることができ、今年度も21TOHO募金に微力ながら協力させていただきました。

12月には春からズレ込んだ研修会で、学園所有の売 木山荘見学とその周辺を散策してきました。大学関係 者、同窓会役員との親睦がとても深まったと思います。



東邦高等学校吹奏楽部 定期演奏会のご案内

高校吹奏楽部では第54回定期演奏会を開催します。みなさんのお越しを心よりお待ちしています。

日 時:2010年2月11日 (木・祝日) 16:30 開場 17:30 開演 (20 時終演予定) 場 所:中京大学文化市民会館 (旧名古屋市民会館) オーロラホール (大ホール)

(名古屋市中区金山1-5-1)

入場料:前売券 800円(当日券1,000円)

※小学生以上は入場券が必要です。

※前売券の販売状況により、当日券を販売しないこともありますので、ご了承ください。

お問い合わせ 東邦高等学校吹奏楽部 顧問 古野・白谷・磯部・長野

TEL: 052-782-1171 FAX: 052-782-7151



東邦高校生対象 愛知東邦大学入試のご案内

第2回入試 出願期間: 1月28日(木)~2月22日(月) 入試日: 2月24日(水) 第3回入試 出願期間: 2月23日(火)~3月10日(水) 入試日: 3月15日(月)

お問い合わせ 愛知東邦大学 学務部入試課 TEL: 052-782-1600

ミャンマーと日本を結ぶベンチャー企業設立 愛知東邦大学の留学生も協力

本学4年生のマ・ウィ・リー・チョウ・モーさんと愛知学院大学4年 生シ・トゥ・アウンさん、戸根渉さんは日本で起業を計画、5月から準 備を進めてきました。本学の安保邦彦教授(ベンチャー企業論)が指導 にあたり、ミャンマーに現地法人を設立しました。

新会社では、まず輸出専門の中古車販売会社などと協力し、現地で人 気の高い中古日本車の輸出事業を行う予定で、将来的には現地に進出す る日本企業へのコンサルタント事業も検討しています。



